

分割育苗法によるサトイモ優良種苗生産技術

【研究のポイント】

サトイモは種イモで繁殖し、その形質は次世代に引き継がれるため、丸い形状で収量性のよい種イモを残す必要があります。しかし、生産現場では販売後の残ったイモから種イモを選別して植付けている場合が多く、次第にイモの形状は劣悪化し、収量性も低下していきます。そこで、優良種イモから効率よく、イモを増殖する分割育苗法を検討しています。

優良形質（丸いも）



【研究の成果】

- 1 分割前処理の違いによる苗質に及ぼす影響
 - ・頂芽の除去および催芽処理が苗質に与える影響を確認しました。分割前に27℃恒温条件に7日間置く催芽処理を行うと欠株率が減少しました。
- 2 分割切片重の違いによる苗質に及ぼす影響
 - ・5gと10gの分割切片重が苗質に与える影響を確認しました。
 切片重10g苗は、草丈が10cm程度かつ約3枚の葉が展開した優良苗を得ることができました。
 - ・切片重5g苗は、草丈が4～6cm程度かつ約2.5枚の葉が展開し、切片重10g苗と比較して小さくなりましたが、増殖率が28.8～38.5倍となり、切片重10g苗より大きくなりました。
- 3 切片重5g苗の育苗方法
 - ・育苗期間を60日設けることで切片重10g苗を40日育苗した場合と同等以上の苗質が得られます。
 - ・50穴のセルトレイを用いてトレイあたり窒素成分3gの基肥施肥または追肥することで切片重10g苗以上の草丈および葉数が得られました。
 - ・種イモを5g切片に分割処理後24日間25℃恒温条件で加温することで、加温せず同期間育苗した切片重10g苗より草丈が大きく葉数も多い優良苗を得ることができました。
- 4 まとめ

以下の処理を行うことで、高い増殖率が得られる切片重5g苗で切片重10g苗と同等以上の苗質を得ることができます。

 - ①分割処理前に種イモを27℃恒温条件に7日間置く。
 - ②50穴セルトレイに、トレイあたり窒素成分3gを基肥施肥又は追肥する。
 - ③分割処理後24日間25℃恒温条件で加温する。
 - ④育苗期間を60日設ける。



図 分割育苗のながれ

【生産者の声】

サトイモの種イモの形質は生産物の品質や収量を左右するため、優良な形質をもつ種イモを残していくことはとても重要です。しかし、優良な形のサトイモは市場で高値で取引されるため、従来より少ない量で優良な形質を残していける技術ができるよう期待しています。

JAおおいた豊後大野大和里いも生産部会 部会長 佐藤義之

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 葉根菜類・茶業チーム

TEL：0974-28-2082

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8